

お元気ですか？先輩！

今回は平成27年3月に退職された藤井力さんから、お話を伺いました。



消防の職に就かれたのは

消防士となったきっかけは、高校3年生の時、将来の具体的な職業を模索中であったころ、学習雑誌にイエス・ノー形式で適応する職業を判定するという記事があり試みた結果、消防士と出たことです。それまで全然意識することがなかった職業だけに当初意外に思いましたが、導かれるように消防士となり、以降退職するまで天職と思いながら仕事をしていました。

印象に残っていることは

警防・予防・管理と様々な業務を経験しましたが、一番長く担当したのは救急業務です。実際に救急車に乗車して救急隊員や救急隊長として活動したのは通算9年、局の救急救助課（現在は救急課）で救急係員を3年、消防学校で救急科目の担当教官を2年半、消防航空隊でヘリコプターによる救急搬送等を担当したのが2年と、16年間にわたり救急の現場・行政・教育を担当させていただきました。中でも印象に残っていることは救急救助課に在籍当時、折から救急業務の高度化が全国的な機運として高まり、平成3年に救急救命士法が制定され、従来、医師でなければ行えなかった輸液や除細動などの救命処置が搬送途上において行えるようになったことです。それまでの搬送救急から救命救急へと、救急救命士制度は日本の救急業務を大きく変えたことを実感したのです。

現在の消防局について

最近、地震だけでなく超大型台風の上陸や接近、特別警報が発令されるほどの大雨など、異常気象による大きな被害が各地で発生しています。被災地における全国からの消防機関が災害活動を行っているニュース映像で見ると、過酷な状況の中での活動に声援を送りながら消防OBとして誇りに感じています。今後もさらなる緊急消防援助隊の人員・装備の充実が必要だと思えます。また、市民から消防機関への期待がますます大きくなっていることも感じられます。



近況について

退職後、今年の3月まで全国的に多くのレジャー産業の店舗を経営する会社で防災指導を5年間担当しました。職務は店舗の防火管理者等へ消防行政に関するアドバイスをはじめ、消防訓練指導や応急手当実技指導、救命講習の開催です。多くの若い従業員との触れ合いがあり、気分が老けることもなく、また店舗巡回が良い運動になり健康に過ごさせていただきました。今後ですが、時間に余裕ができそうなので楽しく健康に繋がることにチャレンジしようと模索中です。

さいごに

充実した消防生活を送れたのは、上司・先輩・同僚・後輩の多くの皆様のお陰と深く感謝しています。僭越ですが若い職員の皆さんにお伝えしたいことは、やりたい仕事や希望する職務があればその実現に努力し頑張してほしいことです。また、上司・先輩から希望しない意に沿わない仕事や職務を言われることがあるかもしれませんが、その時は躊躇し、戸惑うことがあっても、様々な業務経験が自己の成長につながると思われまますので、積極的にチャレンジしてください。